種名	ナ　マ　ズ Silurus asotus
分類	ナマズ科ナマズ属
俗称	ヘコキ（滋賀）、マナマズ（別名）
形態的な特徴	頭が大きく、下顎が上顎より突出していて両顎に一対ずつひげがあり、このひげには味蕾がある。このひげは稚魚では下顎にもう一対あるが、成長の途中で吸収されてしまう。尻鰭が大きく尾鰭とつながり、背鰭は小さい。体色はオリーブがかった斑紋が全体を覆うが変異が大きい。全長は 60cm ほどになる。
分布	現在ではほぼ日本全土に分布するが、関東地方には江戸時代中期、北海道には大正時代末期に移入されたといわれている。
繁殖行動	産卵期は5～7月頃で、産卵は水田や湖沼の岸近くにある水草が多い浅瀬で行われる。卵は淡緑色または淡黄色のきれいな卵で、水田などで目にすることもある。
生息場所	湖沼や河川の中･下流域の泥底部や砂泥底部に生息する。夜行性なので昼間は水草の茂みの陰や岩の間、川岸などにえぐれてできた窪みなどに潜んでじっとしている。
食性	肉食性で小魚やカエル、甲殻類、貝類などを夜に探し回り貪欲に食べる。
生息環境への配慮事項	本種は俗に地震予知または地震を引き起こす魚としてよく知られていることからも、ごく身近に生息していた魚類の一種だと考えられる。最近では本種の成魚を目にすることも少ないが、稚魚を目撃することはほとんどない。これは成魚はエサ供給さえあれば、広域に移動し数年生きていることもあるため、目にすることもあるが、水田などの身近な産卵場が湖沼の護岸、改修などにより減少してしまい、繁殖している水域が限られたことによる。 本種は貪欲な肉食性であるために、生息水域には本種のエサとなる小魚や甲殻類、貝類が豊富に必要となってくる。そのため、本種が生息するためにはエサとなる動物の保全も必要となる。また、近年の河川改修や湖沼の護岸整備などで沿岸の水際植物帯が消失し、本種の産卵場が失われている。水田へ進入して産卵する場合でも、河川本流から細流へ、細流から水田への水系のつながりが、本種が遡上できないほどの高い堰などによって分断されている場合もあり、本種の永続的な保全には産卵場自体の保全とそこへ進入するまでの移動経路の確保が重要になる。
引用文献： http://www.maff.go.jp/nouson/mizu_midori/menu/main.html を改変	